



平成26年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2014/5/2 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 B 問2 D 問3 A 問4 A 問5 C 問6 D 問7 C 問8 B
問9 C 問10 B 問11 D 問12 A 問13 D 問14 D 問15 A 問16 A
問17 C

第2問（12点）

問1 C 問2 D 問3 D 問4 B 問5 E 問6 E

第3問（18点）

I

問1 E 問2 C 問3 B

II

問1 B 問2 D 問3 C

III

問1 E 問2 A 問3 B

第4問（26点）

(1)

① I ② F ③ C ④ H
ア E イ B ウ D

(2)

⑤ B ⑥ I ⑦ C

(3)

⑧ F ⑨ G
エ A オ C カ C キ B

(4)

⑩ J ⑪ D ⑫ E ⑬ I

(5)

⑭ G ⑮ B
ク D ケ A コ E サ B

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2014証券アナリスト1次試験（春）

「財務分析」

2014年（春）試験は、例年通り大問4問の出題で、各大問への配点も同じであった。第1問の正誤選択問題の難易度が高い一方で、分析総合問題は高得点が可能な内容であり、全体として例年通りのレベルであったと思われる。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、17問の出題であった。主に会計制度からの出題であり、ここ数年続いていた勘定記録について、会計情報の特徴といった出題が見られず、会計制度の主要な論点から多く出題された。ただし、例年と比較して難易度が下がったとも言えず、得点を伸ばすことは難しかったと思われる。

第2問の個別計算問題は、6問の出題であった。先物損益や他勘定振替高を含む製品製造原価の算出など、細かな論点の出題も見られたが、他の問題は基本的な計算処理が問われており、全体として標準的な難易度の出題であった。

第3問の総合計算問題は、9問の出題であった。Ⅰ減価償却、Ⅱ純資産会計、Ⅲ株式価値評価について3問ずつ出題された。全体としては標準レベルの出題であったが、「純資産会計」は、従来になかった出題形式であり、中でも包括利益の計算は難易度が高かった。

最後の第4問の分析総合問題は、経営資本についての出題が目新しかったが、その他はオーソドックスな内容中心の出題であった。難易度も標準的であり、十分に満点を狙える問題であったと思われる。

以上

TAC 証券アナリスト講師室